

商品開発・試食・グループワーク・工場見学 すべて自宅で実践！（ヤマモリ）

・受入企業 ヤマモリ株式会社（食品製造業）

・テーマ 調味料・レトルト食品の企画・開発・営業職 お仕事疑似体験

・POINT!

リモートでは、いかにリアルを感じてもらうかが大きな課題。ヤマモリ株式会社のインターンシップでは、前もって調味料や食品を学生宅へ配送。それらを自宅で調合・調理することをプログラムに組み込むことで、リモートでありながら実際の味を体験し、さらなる「食」への理解につなげています。

・実施内容

【両コース共通】

当日は開始直前に釜めしの炊飯ボタンを押すことからスタート。企画体験では、まず消費者ニーズの探り方をワークを通して学び、自分で炊いた釜めしを実際に食べてターゲットと与える「価値」を分析。バーチャル工場見学では、通常のインターンシップでは入れない場所も紹介。

【開発コース】

事前に届けておいた食材を使用し、リモートでレトルトカレーとめんつゆの試食評価。

関東と関西のつゆの違いやうま味の変化についてワークを実施。

【営業コース】

販売戦略では、事前課題としてそうめんつゆを使ったアレンジメニュー創作に挑戦。

当日は発表・提案を兼ねたリモート試食会を実施。

手強いバイヤーになりきった支店長を相手に営業ロールプレイング。

・スケジュール

8月18日(火)～8月21日(金)のうち3日間(18時間)

	AM	PM
8/18(火)	ガイダンス、商品企画開発部の概要説明	企画グループワーク①②③
8/19(水) 開発コース	開発研究所の概要説明 レトルトカレー開発グループワーク・試食	めんつゆ開発グループワーク・試食
8/20(木) 営業コース	中部支店の概要説明 営業グループワーク【販売戦略①】	営業グループワーク【販売戦略②】 営業ロールプレイング
8/21(金)	バーチャル工場見学 安全衛生ワーク	振り返り、発表資料作成 成果発表プレゼン

・受入担当者コメント

初めてのオンライン開催でしたが、同じ「食」を体験しながら行うことで対面と同じような一体感が生まれ、意見や質問が飛び交う活気ある内容となりました。当社のインターンシップでは人事はあくまでサポート役に徹し、営業コース・開発コース共にその業務に精通した社員が講師を務めるので、より深い学びを得ることができます。

・参加学生の声(生物資源学部3年)

初めて参加するインターンシップでしたが、目標設定の方法から教えていただき、単なる仕事理解だけでなく、自己成長につなげられる実りのある成果を得ることが出来ました。

オンライン開催とのことで、話を聞くなど受け身な形がほとんどでは、と不安を感じていましたが、企業や職務内容の説明だけでなく、事前に送っていただいた商品を使用したワークもあり、非常に実践的な参加型のプログラムとなっていて、自発的に学びを得ることが出来ました。

グループワークでは、「一人では商品を作れない」ということを学ぶとともに、他の参加者にあって自分にはないものを知ることが出来ました。これまでオンラインでのグループワーク経験があまりなかったため不安でしたが、社員の方からの丁寧な説明と参加メンバーの協力のおかげで、対面と変わらずにスムーズにできたと思います。

オンラインということで、コミュニケーションや伝え方の難しさを感じることはありましたが、新時代の働き方を体験でき、結果として非常に良かったですし、様々な大学の学生と交流することができ、貴重な経験になったと感じています。



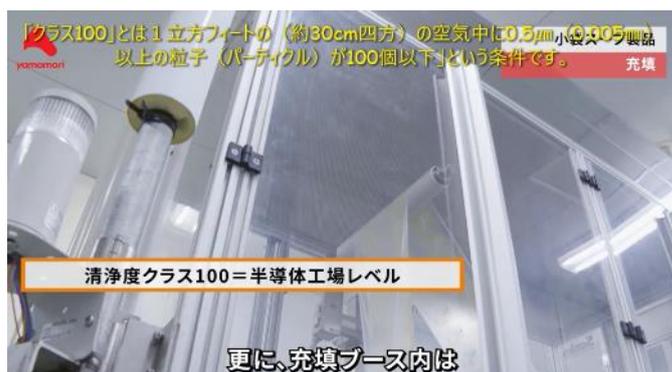
開発コースでは、商品 10 点・サンプル 15 点を研修材料としてお送りしました



営業コースに参加した学生が考案してくれたアレンジレシピです



アレンジメニュー発表会の様子です



バーチャル工場見学では、通常ならお見せできなかったエリアも紹介

リモートで医療機器の営業職を理解！（八神製作所）

・**受入企業** 株式会社八神製作所(医療機器商社)

・**テーマ** 医療営業を学ぼう！リモート3daysインターンシップ

・POINT!

リモート環境で営業を知ってもらうにはどうすればよいか。八神製作所のインターンシップでは、医療機器商社の営業職を理解してもらうため、「手術室提案」というテーマで営業体験ワークを行います。より実践的なものとするため、社員が医師、病院事務、メーカーそれぞれの役割を演じ、電話での問い合わせにも対応しながら、どのようにすればより顧客のニーズに合った提案ができるかグループで取り組みます。

・実施内容

一日目は、基礎知識として医療業界と医療機器商社についての講義を受講。

二日目は、実践的な課題として、病院に「手術台」「无影灯」を提案する営業体験ワークに取り組み、グループごとに提案内容の発表まで行います。

三日目は、八神製作所についての講義とグループワーク。

そのほか、スライドを使った自己紹介やミニゲーム、営業社員との交流会などグループで気軽に取り組みめるものも多く取り入れ、リモートでも参加者同士の交流が深まるように工夫しています。また、ビジネスマナー、自己分析など今後の就職活動でも役立つ内容も盛り込んでいます。

・**スケジュール** 9月9日(水)～9月11日(金)の3日間(12時間)

9/19(水)PM	自己紹介、目標設定 講義(医療業界、医療機器商社について)
9/10(木)PM	ビジネスマナー 営業体験グループワーク「手術室提案」
9/11(金)PM	講義(八神製作所について) グループワーク「八神に求められる役割とは」 営業社員との交流会 自己分析・他己分析、振り返り

・受入担当者コメント

インターンシップの目的である「就業体験」を、果たしてリモートで実現できるのだろうか、というのが企画当初の率直な想いでした。しかし実施をしてみて、会社の雰囲気が伝わりにくいなど課題もありますが、医療商社営業の面白さや難しさを体感するとともに、自身の強みや課題にも気付いてもらえるようなインターンシップが実施できたのではないかと感じています。

営業体験グループワークは、学んだビジネスマナーを活かしながらの実践的なワークとなりました。慣れない敬語や電話に悪戦苦闘しながらも、お客様の要望を聞き出し最適な提案ができるよう、グループで協力しながら一生懸命に取り組んでいる姿が印象的でした。

3日間を通して成長とともに各グループの団結力も高まり、オンライン上で連絡先を交換しているグループも。今回得た学びや仲間を大切にしていってほしいと思います。

・参加学生の声(人文学部2年生)

「楽しかった！」これが私の1番の感想です。どこか堅いイメージのあるインターンシップ。その点リモート参加型であるこのインターンシップはとても参加しやすく、穏やかな雰囲気の中で協力しながら楽しく活動が出来たと思います。またインターネットを通して実際に営業体験をするなど、リモート参加型でも現地参加と同じように活動することが出来ました。

インターンシップを通じて、事業内容だけでなくグループワークや担当者の方からのフィードバックを受けて、今の自分に足りないものや営業をするにあたって信頼の構築がいかに重要かということを知ることができました。漠然としていた就職活動を少し身近に感じる事ができたため、これからの学生生活を目的意識を持って送りたいと思います。たくさんのお話を学ぶことができたこのインターンシップ参加は私にとって大変貴重な体験となりました。



Zoom を活用してのインターンシップ



リモートで営業の仕事を模擬体験

リモートの企画・提案型ワークで学生の成長を実感！（三重大学就職支援チーム）

・受入企業 三重大学就職支援チーム(教育機関)

・テーマ リモートで体験 大学の就職支援業務

・POINT!

「発想力」「説明力」「時間管理」の3つを実感してもらうことを目的に企画・提案型ワークを設定。データ整理に始まり最終的に発表まで行うことで、達成感を感じてもらうとともに、社会人として求められる力を理解してもらいます。また、ワークだけでなく、バーチャル職場見学や座談会などを盛り込むことで、参加学生がリモートでもさまざまな体験ができるように工夫しました。

・実施内容

大学の就職支援業務を体験してもらうため、大きく二つの課題を設定。

一つ目は、「就職状況データ」の整理・グラフ化に取り組みます。事務職員として必須となる表計算ソフトを駆使し、そこから読み取ることができる傾向や課題をまとめます。

二つ目は、企画力・提案力が試される「県内就職率を上げるには」という課題に挑戦し、最終的に自ら考えたプランの発表まで行います。

そのほか、企業担当者と話す機会を設けたり、動画撮影をしながら各所属を案内し、職員と対話できるバーチャル職場見学や若手職員との座談会も実施しました。

・スケジュール

9月16日(水)～9月18日(金)の3日間(18時間)

	AM	PM
9/16(水)	目標設定 大学の事務組織説明、就職支援チームの業務説明、学務部内の案内(動画撮影)	課題①「三重大生の就職状況のデータ整理と読み取り」 企業向け「パワーアップセミナー」体験
9/17(木)	課題①の成果を参加学生間での共有	課題②「三重大生の県内就職率を上げるには」
9/18(金)	課題②の成果を職員に発表	若手職員との座談会 振り返り

・受入担当者コメント

参加学生は3日間で見違えるほど成長しました。そしてまだまだ伸びていく可能性を感じさせてくれました。オンラインということで、最初はコミュニケーションの取り方や、システムの操作方法に苦労しているようでしたが、プログラムをこなすごとに慣れていき、最終日の発表会では、整理したデータを根拠にしてしっかりと自身が考えた提案を発表することができました。

受入側としては3日間のリモート対応に不安もありましたが、実際にやってみて、工夫次第でできることは多いと感じました。バーチャル職場見学や成果発表会などはまだまだ膨らませることができそうですし、5日間でも十分に対応できる内容になると思います。

・参加学生の声(人文学部2年)

課題解決ワーク等を通して、時間管理の重要性や自分の考えを他者に伝えることの難しさを知ることができ、リモートでもとても有意義なものであったと感じています。オンライン上の発表では、対面に比べ緊張感は和らいだ一方、聞き手の反応や雰囲気分かりにくいいため、伝わっているのか心配になる場面もありました。今後、自分が聞き手側になった際には、頷き等を普段よりもしっかりすることを心がけたいと思います。

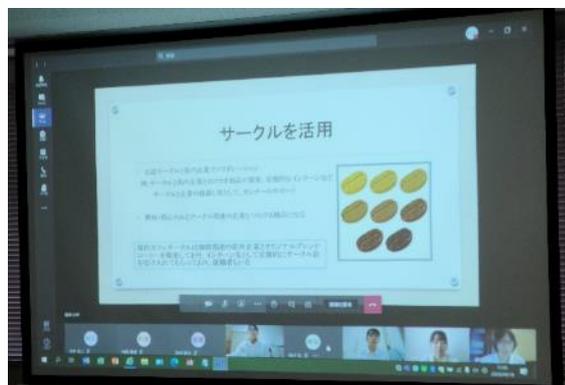
課題解決ワークをする中で、アイデアを出すことに苦労したので、自分の考えを言語化し、それを掘り下げる訓練や多くの経験や知見を広げることを意識し、これからの学生生活を過ごしていきたいと思えます。コロナ禍に配慮したリモートでのインターンシップを実施いただきとてもありがたかったです。



参加者同士、Microsoft Teamsで意見交換



成果発表の様子をスクリーンに投影



パワーポイント資料により発表する様子



バーチャル職場見学を行う職員

多様なリモートプログラムで保険業務を体感しよう！（損害保険ジャパン）

・受入企業 損害保険ジャパン株式会社(金融)

・テーマ 業務体感ワークを通じて損害保険業界の役割・使命を理解する

・POINT!

オンラインという環境の下、少しでも業務を感じることができるよう多様なプログラムを設定。架空の顧客を想定してリスク分析とソリューション提案を行うロールプレイングに取り組んだり、また、臨場感を意識して作製した「現場紹介VTR」を視聴するなど、さまざまな工夫をしています。また、リモートでは会社の雰囲気を感じづらいことから、極力多くの関係者と接することができるように座談会を複数回設けています。

・実施内容

損害保険業界や業務に関する知識を深めてもらうため、次の各種プログラムに取り組んでもらいます。

・講習…「業界理解」「SCクレド(※)」

・業務体感ワーク

「リスクコンサルティング(営業部門)」…リスクに対してどう備えるかという観点から、保険の提案に留まることなく新しいサービスを考えます。

「保険金サービス部門」…事故の担当者として責任割合を特定するために様々な証言を検証します。

・現場紹介VTR視聴…「営業部門」「保険金サービス部門」

また、ビジネスマナー講習、新しい生活様式ワークのほか、社員や内々定者との座談会も計3回実施し、働く人や就職活動を終えた学生の生の声を聞く機会を設けています。

※「SC」は「サービスセンター」の意味で、保険金サービス部門の社員が、日常業務を進めていくうえでの判断や思考、行動の源となるもので、常に顧客を意識し、「まごころ」をこめたサービスを行うための心の信条を明確にしたもの。

・スケジュール

9月7日(月)～9月9日(水)の3日間(19時間)

	AM	PM
9/7(月)	自己紹介 目標設定 社員座談会(採用グループ) ビジネスマナー講習	業界理解 振り返りと翌日の目標設定
9/8(火)	リスクコンサルティング(営業部門)業務体感ワーク	リスクコンサルティング(営業部門)業務体感ワーク 新しい生活様式ワーク 営業現場紹介 VTR 振り返りと翌日の目標設定
9/9(水)	保険金サービス部門業務体感ワーク SCクレド 保険金サービス部門現場紹介 VTR	社員座談会 内々定者座談会 全体振り返り

・受入担当者コメント

今回は初の全編リモートということで、学生のみなさんといかに距離を縮め、職場の雰囲気を感じてもらいつつ、当社の業務について理解を深めてもらうかということ課題としていました。そのため、例年プログラムの最後に実施していた社員座談会を初日の午前中にも実施するとともに、対面のときよりも

意識して学生のみなさんの受け止めや状況に気を配ることを心掛けました。これにより緊密なコミュニケーションが図られ、リモートでもしっかりと業務への理解を深め、一人ひとりの学びにつなげていただけたのではないかと感じています。

・参加学生の声(人文学部3年)

初めての3日間にわたるインターンシップで、しかも全てリモートでしたので、参加前は不安もありましたが、実際にインターンシップが始まると、事前配布資料と画面の両方を活用することで、対面と同じように充実した体験をすることが出来ました。リモートでも画面上で手を挙げたり頷くなど工夫することで、スムーズに意思疎通が出来たのではないかと思います。

業務体感ワークでは、営業部門と保険金サービス部門に分かれて取り組む中で、個別に具体的なアドバイスをいただけたことで、業務内容をより深く理解することが出来ました。代理店の方と共に歩みながら解決策を提供する営業に触れ、お客様に寄り添う姿勢の重要性を学ばせていただきました。また、目標設定や振り返りも毎日行っていたので、自己理解を深め、反省を翌日に活かせるよう行動することが出来たと思います。

3日間のインターンシップを通して、特に「挑戦」という保険の先へ進む姿勢が印象に残っています。今回の経験を活かし、私自身も先に向かって挑戦する姿勢を持ち続けたいと思います。



臨場感を意識した現場紹介VTR



事前の送付したO×カードで意思表示



QRコードから動画にアクセス



リスクコンサルティング(営業部門) 体験ワーク

トヨタ流技法を学ぶ！リモートでシステムエンジニア体験(豊田自動織機 IT ソリューションズ)

・**受入企業** 株式会社豊田自動織機 IT ソリューションズ(情報通信)

・**テーマ** トヨタ流問題解決技法を学ぶ！システムエンジニアの仕事体験

・POINT!

「システムエンジニアとはどんな仕事？」「オンラインでの仕事はどうやるの？」「トヨタの問題解決技法ってどんなもの？」そんな疑問を一気に解決できるオンラインインターンシップ。

参加学生は「トヨタ流問題解決技法」を学んだうえで、システムエンジニア体感ワークに取り組みます。

プライベートでも活かせる問題解決技法が学べるだけでなく、実際の社員がコロナ禍で行っているオンライン上でのディスカッションや顧客ヒアリング、提案資料作成などの経験が可能です！

・実施内容

1 ワーク「システムエンジニアってどんな仕事？」

2 講義「トヨタ流問題解決とは何か？」

3 トヨタ流の問題解決技法を実践するシステムエンジニア体験ワーク

ワーク①「工場の操作パネルにクレーム多発!?何が問題？」

ワーク②「人気商品に欠品が？解決するためには何をすれば？」

4 内定者との座談会

5 まとめ、フィードバック

※より深く豊田自動織機 IT ソリューションズやIT業界について知りたい学生向けのインターンシップも別途実施しています。

・スケジュール

8月27日(木)～8月28日(金)の2日間(12時間)

	AM	PM
8/27(木)	システムエンジニアについて調べてみよう	トヨタ流問題解決技法についてについてシステムエンジニア体感ワーク①
8/28(金)	システムエンジニア体感ワーク②	内定者との座談会

・受入担当者コメント

当社のシステムエンジニアは、お客様からヒアリングし、課題解決をメインに行う仕事です。もちろん実際のお客様の現場を確認するのも大切ですが、コロナ禍の緊急事態宣言時には7割以上の社員が在宅勤務を実施し、リモートで仕事に取り組んでいました。その状況をまさに再現したプログラム構成になっています。

インターンシップ中はトヨタ流問題解決技法をお伝えするだけでなく、実践ワークにおいて採用担当からのアドバイスやフィードバックも行っています。オンラインならではのグループワークを行うコツもお伝えしつつ、2回のワークを経て対面と同じような一体感を感じ取っていただけたと思います。

・参加学生の声(人文学部3年)

システムエンジニアの仕事が文系の私にもできるのか不安に思っていたのですが、実際に文系出身者も多く、社員研修等で手厚い指導が受けられ、文系も活躍できる職種であることがわかりました。日々ひたすらPCに向き合うイメージでしたが、現実には顧客の問題解決のためにヒアリングを行い、適切な提案をすることが中心であり、想像以上にコミュニケーション能力が求められるということが新たな発見でした。グループワークでは、トヨタ流の問題解決技法やヒアリングの大切さなど、普段は得ることのできない知識や経験を得るとともに、ワークをする中で自分の弱みや改善すべき点を発見できました。社員の皆さんもとてもフレンドリーで、企業の雰囲気がオンライン上でも伝わってきて、参加前はIT業界についてあまり知識がありませんでしたが、今回のインターンシップに参加したことで業界への強い関心につながりました。

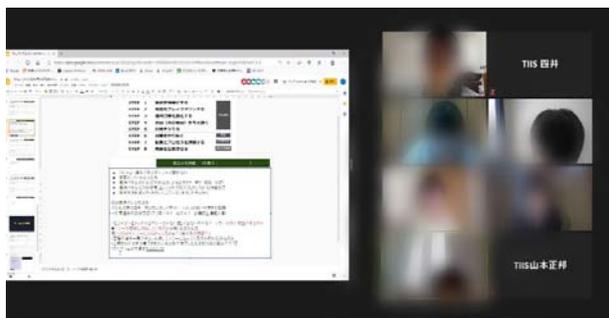


顧客ヒアリングでは社員がお客様役になりリアルな雰囲気を体感！

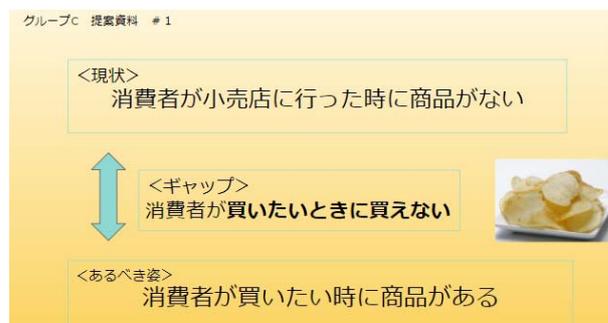
問題解決の8つのステップ

STEP 1	問題を明確にする	PLAN
STEP 2	問題をブレイクダウンする	
STEP 3	達成目標を設定する	
STEP 4	真因（真の要因）を考え抜く	
STEP 5	対策を立てる	
STEP 6	対策をやり抜く	DO
STEP 7	結果とプロセスを評価する	CHECK
STEP 8	成果を定着させる	ACTION

トヨタ流問題解決技法で有名な「8つのステップ」の一部を実践！



画面共有機能を用いながらディスカッションを行い、WEB会議を体験！



最終成果発表会では作成した提案書をオンラインで発表！

インターンシップで街のプロデュースを体験しよう！(三交不動産)

・**受入企業** 三交不動産株式会社(不動産業)

・**テーマ** 施設開発・運営について知ろう！街のプロデューサー体験インターンシップ

POINT!

「複合施設をリニューアルしよう！あなたならこの施設にどんなテナントを誘致しますか？」三交不動産では、実際に取り組んだ事例をベースに、グループでの体験ワークとして、複合施設のリニューアルに取り組みます。オンライン上で地図を確認し、立地周辺環境などからターゲット層やコンセプトを検討し、施設に入ってもらってテナントやその配置・規模を自ら選定。参加学生自身が街のプロデューサーとなり、デベロッパーとしての仕事の面白さややりがいをリモートで実感してもらいます。

実施内容

【1日目】事業や業界の説明の後、事業部の担当者が先生役となり、業務の説明のほかグループワークを通して、テナント誘致などの仕事の一部を体験します。各チームごとに検討内容の発表まで行った後は、現場社員からのフィードバックを実施します。あわせて社員との交流も行います。

【2日目】1日目の実習を踏まえ、コロナ禍における会社や業界への影響を自身で調べ、発表します。学生・社員双方の意見交換の後、フィードバックやインターンシップ全体の振り返りも実施します。

スケジュール

9月14日(月)～9月15日(火)の2日間(10時間)

	AM	PM
9/14(月)	オリエンテーション 企業、事業、業界説明	事業部の担当者から説明 グループワーク「テナント誘致について考えよう」 社員交流会
9/15(火)	-	1日目の振り返り ワーク「コロナ禍における会社・業界への影響を考えよう」

受入担当者コメント

三重大生を対象としたインターンシップが全てリモートで実施するきっかけとなりました。リモートではコミュニケーションが一方通行なイメージがありましたが、参加者の皆さん同士、積極的に発言や投げ掛けを行っていただきましたので、社員も楽しく過ごすことができました。対面時のような直接の雰囲気は伝わりづらいですが、その分、社員との交流の機会を多めに設けることや、より丁寧なフィードバックで学生の疑問や不安を払拭するよう心掛けました。実施を通し、対面とリモートでの時間の使い方など課題点は多く見りましたが、今後のインターンシップに向けて実施の幅が広がったように感じます。

参加学生の声(人文学部2年)

2日間を通して、不動産業界の事業内容を知るとともに、実際にあった事例を体験ワークとしてグループで行うことで、「街をプロデュースする」という仕事内容をよく理解することが出来ました。

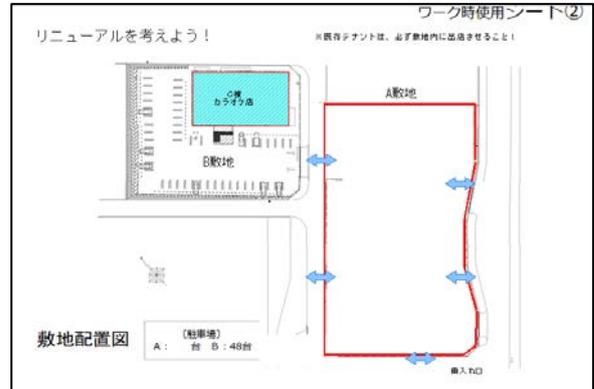
また、コロナ禍における様々な業界への影響に関して、他の参加学生と意見交換をし、さらに社員の方の視点で意見も伺うことで、不動産業界やそれ以外の業界が今どのような状況にあるのか、そしてその

原因は何かということについて、深く考察することが出来ました。さらに、社員の方から企業・業界研究に関するアドバイスもいただき、これからの就職活動に役立てることが出来そうです。

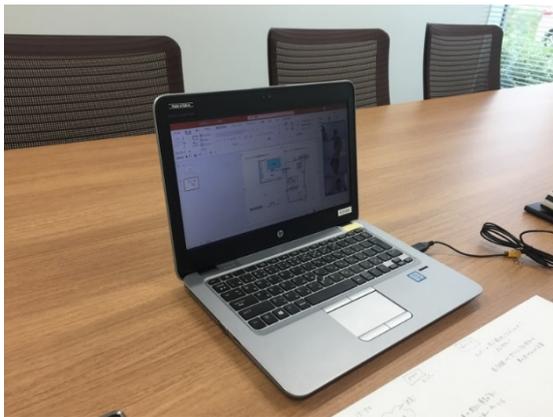
このインターンシップでは、体験ワークやディスカッション等で何か発言した際に、担当者の方からとても丁寧にフィードバックがいただけたことがとても印象的でした。社員の方とのコミュニケーションがしっかりとれるインターンシップなので学びが多かったです。



事業部からの説明



ワークで施設のリニューアルに挑戦



パワーポイントを画面共有しながらチームに分かれてグループワークを実施



新製品の「企画・立案」とは～これからのエンジニアに必要なもの～(トーテックアメニティ)

・**受入企業** トーテックアメニティ株式会社(情報サービス)

・**テーマ** 新製品の企画・立案を通してエンジニアの仕事を学ぶ

POINT!

柔軟な発想を期待して、あえてテーマを設定せずにまったく新しい製品の企画・立案に取り組みます。グループワークを中心に、実際に働くエンジニアからプロ目線でレビューを受けることで、アフターコロナにおけるエンジニアとして大切なコミュニケーションの取り方など仕事の進め方・考え方について学びます。

実施内容

5日間を通して3人1組のグループで新製品の企画・立案ワークに取り組みます。

ワーク中は Zoom のブレイクアウトセッション機能と自社SNSサイトを活用して、メンバー間のコミュニケーションを図りつつ、定期的にエンジニアがレビューやフィードバックを行い、それをもとに改良を重ねます。

最終日のプレゼンテーションでは、学生ならではの柔軟かつ自由な発想で、「スマホ全操作ベッド」や「音を可視化するARメガネ」など斬新なアイデアが発表されました。

スケジュール

8月24日(月)～8月28日(金)の5日間(35時間)

8/24(月)	イントロダクション 自己紹介 問題提起(個別)	8/27(木)	定量化(グループ) 市場・現状調査(グループ) レビュー③
8/25(火)	提起した問題の検討(個別) 企画選定(グループ) レビュー①	8/28(金)	最終レビュー 総評 自己・他者評価
8/26(水)	企画選定(グループ) レビュー②		

受入担当者コメント

初めての5日間オンラインでのインターンシップ開催となりました。インターンシップの目的である「就業体験」を、果たしてオンラインで達成できるのだろうか、社員も試行錯誤を繰り返しました。通常のインターンシップとは異なり制約が多い中、少しでも「企画・立案」業務の一端を知り、エンジニアとはどういう仕事なのか気付きを得てもらうことを目的としていましたが、5日間の体験を通じて、皆さんにはエンジニアとして求められる資質や、社会人として働くとはどういうことかを感じていただけたかと思えます。今後はオンラインと対面それぞれの良さを取り入れたインターンシップを検討していく予定です。

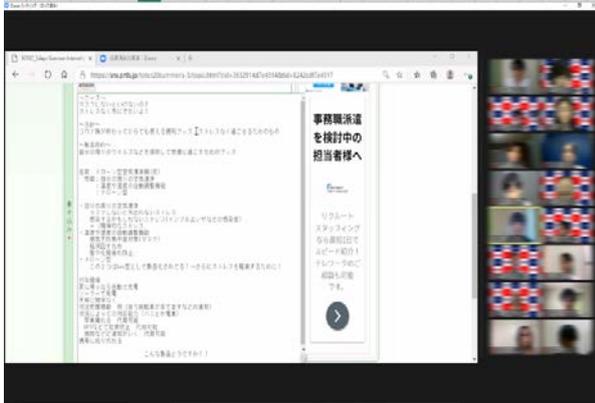
参加学生の声(工学部3年)

今回のインターンシップでは、5日間すべてオンラインとのことでしたが、グループワーク中心でメンバーや社員の方と話し合う機会が豊富にあり、コミュニケーション力が身に付き、企画立案の一連を通して、企画をつくる難しさや社会人としての納期に対する意識を実感することができました。

また、エンジニアの方から複数回レビューしていただいたことも有難かったです。いろいろと質問することもできましたし、ものごとを見るときの視点や日々の振り返りと改善の重要性を教えていただきまし

た。

これまでの生活ではあまり意識しなかったことを多く学ぶことができたので、今後もこれらを意識して学生生活を過ごしていきたいと思います。



製品発表の様子



業務日報



懇親会の様子

【音を可視化するARメガネ】
「視えないものを視えるように」

【販売価格】
販売価格：ARメガネ...約6万
マイク...約3万
その他制作費含め 合計20万円

【機能】
緊急モード：危険音を検知した場合、音の発生源に物体を表示する。
後方からの危険音を検知した場合はパナーで通知し、振り返ることを勧める
パナーは10秒表示(音の物体に近づいている場合は10秒ごとに再通知)
GPS機能で使用者の位置と音の発生源との距離をARメガネの画面に表示する。

【仕様】
ARメガネの質量 約50g
画面サイズワイドパネル(16:9)
解像度 1280×720ドット(HD)
色 赤・黒・白
バッテリー駆動時間 約8時間
SIMカード搭載
GPS搭載

危険音の種類
爆発音
踏切の音
クラクション
叫び声
歩行者信号の音

※イメージ図

会話を文字に起こす

考案された新製品

ちょっとできる自分へ～IT 企業ものづくりインターンシップ～(松阪電子計算センター)

・**受入企業** 株式会社松阪電子計算センター(情報通信)

・**テーマ** ソフトウェアの設計から開発まで、エンジニアとしての仕事の流れを体験しよう!!

POINT!

「ソフトウェアってどのように作られるの?」「システムエンジニアってどんなことをやるの?」といった悩みを一気に解決できるインターンシップ。プログラミング未経験者から経験者まで、それぞれのスキルに合わせたカリキュラムが用意され、ソフトウェアの設計から開発までを一通り体験できます。

感染リスク対策として、対面を最小限にし、それ以外はリモートで実施。実際に働く社員もテレワークと出社を織り交ぜた勤務形態をとっており、コロナ禍におけるエンジニアの実情に近い経験が可能です。

実施内容

<1日目> 来社し、オリエンテーションやプログラミング基礎の講義を受けます。

<2日目～4日目> 自宅でソフトウェア開発作業に取り組みます。午前中は開発に必要なプログラミング等の講義を受け、午後からは実際に開発作業に取り組みます。開発作業中は、チャットツールや Zoom を使用して、いつでも質問することができます。

<5日目> 再度来社し、成果の発表会を行います。実際に働くプログラマーやシステムエンジニアからレビューもしっかり受けられます。発表会の後は、若手社員との座談会。仕事について、就活についてなど何でも聞くことができます。

スケジュール

8月17日(月)～8月21日(金)の5日間(35 時間)

	AM	PM
8/17(月) 対面	・オリエンテーション	・プログラミングについて(座学) ・C#によるプログラミング体験
8/18(火) リモート	・プログラミング基礎(座学) ・C#によるプログラミング体験	・C#と API を用いたアプリ開発体験
8/19(水) リモート	・プログラミング講義(座学)	・C#と API を用いたアプリ開発
8/20(木) リモート	・プログラミング/設計 講義(座学)	・C#と API を用いたアプリ開発
8/21(金) 対面	・成果物発表資料作成	・成果物発表会/レビュー ・座談会

受入担当者コメント

リモート型3日間と、対面型2日間のハイブリット式での開催となりました。通常であれば5日間全て来社いただくコースでしたので、「職場体験」としての役割を果たせるのかという不安がありました。しかし、現在社員自身もテレワークが多いため、ある意味リアルな職場体験をしていただけたと感じております。質疑応答や講義も Zoom やチャットツールを使用し、滞りなく実施出来ていました。リモート作業中は、来社時より個々のスケジュール管理が重要になってきます。その辺りも実務に近い体験をしていただけたのではないかと感じました。

■参加学生の声(工学部3年)

今回参加することで、情報系の技術職として働くという感覚を、大まかですが感じる事が出来ました。働くということはお金を払う側からお金を受け取る側になるため、それに見合う価値を発揮しないといけない。そのためには、利用者のニーズをしっかりと把握し、決められた時間で成果を出す=良いシステムを作ることが求められる、ということがよく分かりました。全体を通して仕事の面白さを実感することができ、IT 関係の職に就くという選択肢がより強いものとなりました。

また、担当の方から自分では気付くことができない問題点や欠点を教えてもらったり、他の参加者の長所や違いを発見したりすることで、自己理解が深まりました。

コロナの影響もあり、今回はリモートの部分と対面の部分がありましたが、やはり対面の方が会社の雰囲気を感じることができ、分からないことを質問しやすかったです。部分的ではありますが、コロナ禍でも対面で参加することができて、とてもいい経験になりました。



開発画面



成果物発表会の様子



開発作業風景(来社時)